



株式会社 **BUNSHIN**

ビジネスもクリエイティブも変えてしまう。生成AIを駆使した究極のヒューマンスキルハック  
**プロンプトエンジニアリングマスターコース**

厚生労働省  
人材開発支援助成金  
(事業展開等リスケリング  
支援コース)  
対象講座

# プロンプトエンジニアリングマスターコースとは



“これからの10年。AIを使いこなすスキルは、  
優秀な部下を持つよりも / 才能に溢れたクリエイティブディレクターがいるよりも /  
頭脳明晰なコンサルタントよりも / ベストなプロジェクトメンバーが揃うよりも /  
必要なものかもしれない”

2022年後半に発表されたChatGPTによって、誰もが使える形となった人工知能「生成AI」がビジネスの世界を激震を与えています。またこのテクノロジーを活用した画像生成、映像生成AIもクリエイティブ業界に大きな変革を与えています。

人間と比較しても遜色のないその能力は、賛否両論を巻き起こしています。それはとりもなおさず、人間の生産性や創造性が飛躍的に拡張していくことを意味しています。

デジタルハリウッドでは、この生成AIのもたらす能力を肯定的に捉え、誰も見たことのない世界を作る優れたクリエイター/ビジネスパーソンを輩出したいと考えて、生成AIの操作に習熟する人材を養成する「プロンプトエンジニアリングマスターコース」を作りました。

ビジネスもクリエイティブも変えてしまう。生成AIを駆使した究極のヒューマンスキルハック  
それがプロンプトエンジニアリングマスターコースです。

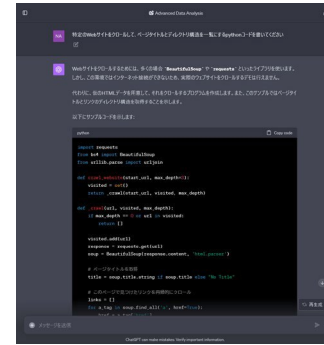
## プロンプトエンジニアリングマスターコースで学ぶAIスキル



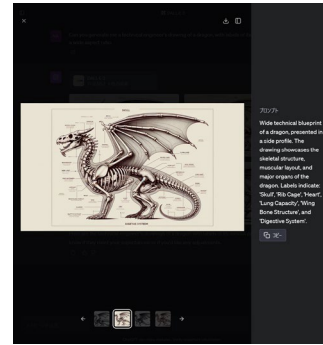
文章を書く



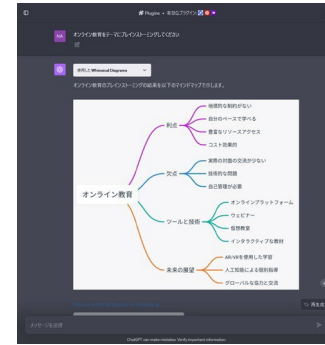
メンターを頼む



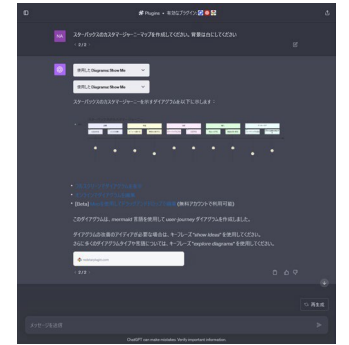
コードを書く



絵を描く



図式化する



分析する

## 生成AIを活用して創造性と生産性を手に入れましょう

- 技術的背景なども押さえながら、プラグインの動向や超実践的なTips、現場を意識したケーススタディなどでChatGPTをベースに生成AIを徹底的に使いこなせるように体系化した講義内容
- 受講時間 約14時間(2023年11月現在)。光の速さで進化するAIトレンドに追従するべく、高頻度で講座をアップデートし、学習内容を拡充していきます。
- 月2回のリアルタイム講義を予定。社内スキルアップを目指すビジネスマンにも、転職やスキルアップを希望するクリエイターにも対応
- 生成AIのポテンシャルを最大限に引き出して、個人の能力をエンパワーメントします。

生成AIを活用すると、今までできなかったことができるようになります。

- 特定テーマのプロフェッショナルな報告書を作る
- ライターの代わりに原稿を書く
- 非日本語の原稿を翻訳する
- 日本語以外で書かれた論文やエッセイを読む
- 映像シナリオの草案を作る
- 要約を通じてより早く情報をインプットする
- マーケティングプランを練る
- ディスカッションや会議を効果的に行う

## Empowerment!



- プログラムコードを書く
- データを投入してプログラミングなしにデータから分析を行う、
- データを投入してプログラミングなしにデータ内の特徴を見出す
- 広告のクリエイティブを作成する
- 絵が描けなかった人が絵を描ける
- コンセプトアートを描いて脳内イメージを他人と共有する
- AIをメンターとして活用する

# 生成AIと新しい時代の到来



拒否よりも受容を、100年に一度の革命的な変化を楽しみましょう

出来事	産業革命(1750-)	石油の発見(1859-)	コンピュータ(1945-)	AI(2010-)
概要	大量生産 蒸気機関導入	エンジンの発明 エネルギーの貯蔵	トランジスタの発明 2進法の活用	知性の再現
変化	織物業発展 製鉄業発展 蒸気機関で交通革命	石油動力機関 化学製品の発明 飛行機の発明 自動車の発明	膨大な計算が瞬時に可能に 世界を可視化することが可能に	個人の能力拡張 誰もが超人に
新しい職業	服飾業関連業務 重工業関連業務 公共交通関連業務	自動車関連業務 航空関連業務 道路インフラ構築 化学薬品関連業務	情報通信関連業務 半導体関連業務	???

## カリキュラム

- 生成AIとは何か？
- プロンプトエンジニアリング概論
- プロンプトフレームワークの活用
- プラグインの活用(検索)
- プラグインの活用(可視化)
- ビジネスで使えるTips
- プロンプトエンジニアリングの個別Tips集(データ生成編)
- プロンプトエンジニアリングの個別Tips集(CodeInterpreter)※現在はAdvancedDataAnalysis
- プロンプトエンジニアリングの個別Tips集(分析編)
- プロンプトエンジニアリングの個別Tips集(可視化編)
- プロンプトエンジニアリングのケーススタディ(1)-(4)

## 講義時間

オンライン講義 14時間40分(2023年11月現在)+ZOOM/DISCORDを活用した質疑応答 月1回(第三金曜日 16:00-17:00)1時間実施

## 受講期間

3か月を目安に受講完了(受講期限は1年間)

## 受講資格

インターネット回線に接続可能なこと

講義動画を視聴しながらChatGPTを操作することもあるためパソコンを所有していることが望ましい

ChatGPT、DISCORDの事前会員登録は不要(講義の中で解説)

## 受講価格

14万円(税別)



## **BUNSHIN CEO 橋本大也**

ビッグデータと人工知能の技術ベンチャー企業データセクション株式会社の創業者として同社を上場させた後、顧問に就任し、教育者、事業家に転進。現在はデジタルハリウッド大学教授およびデジタルハリウッドメディアライブラリー館長として教育とITの領域でイノベーションを追求している。多摩大学大学院客員教授。早稲田情報技術研究所取締役。



## **BUNSHIN COO 安藤直紀**

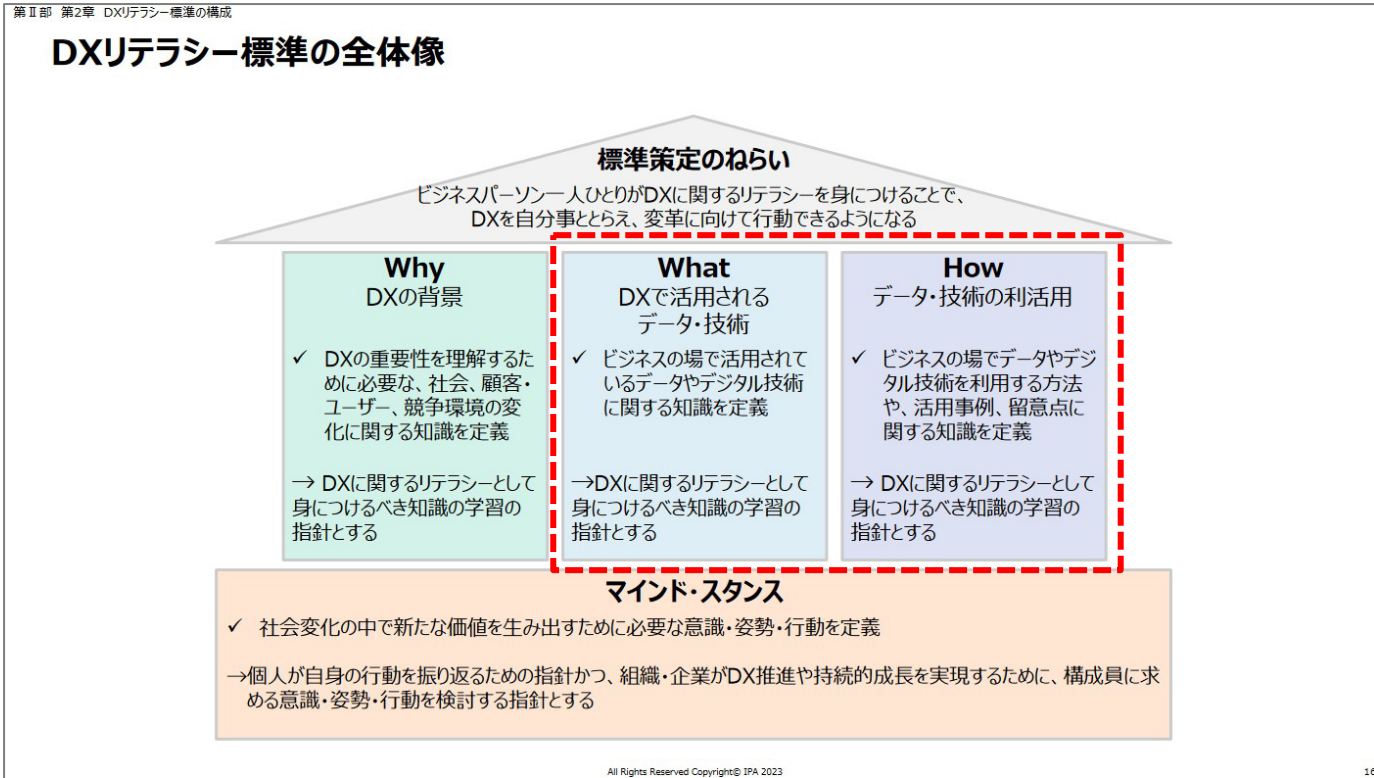
デジタルハリウッド社で企業研修および産学官連携事業を担当の後、フリーランス“ARCHIT”と独立。デジタルマーケティングの上流から下流までを包括して運用することを生業とし、戦略立案から実商品の企画開発まで手掛けている。現在は自身の事業領域でAIを活用することに情熱を注いでいる。デジハリオンライン講師をはじめ、法人研修講師としての実績も豊富。

# デジタルスキル標準との関係



情報処理推進機構の策定した「デジタルスキル標準」にDXに関する知識とスキルマインドをWhy/What/Howの3軸で学習しリテラシーとして身に付けることを提案されておりますがプロンプトエンジニアリングマスターコースは、詳しい原理原則の説明と豊富なケーススタディによってデジタルスキル標準内で示されているAI学習項目例の内容に対応しています。

サイバーセキュリティ



第I部 第3章 スキル学習項目 2.スキル学習項目詳細 (各項目の内容・行動例・学習項目例)

### What - AI

内容	説明	～学習項目例～
<ul style="list-style-type: none"> <li>AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を知っている</li> <li>AIの仕組みを理解し、AIができること、できないことを知っている</li> <li>AI活用の可能性を理解し、精度を高めるためのポイントを知っている</li> <li>組織/社会でよく使われているAIの動向を知っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AIの浸透やウェアラブルデバイスの普及などAIが日常生活に影響を及ぼしているため、このような変化がなぜ起きたのか理解することが求められる。</li> <li>仕事においてもAIを利用する場面が今後発生することが想定されるため、AIには何ができて何ができないのかわかることが求められる。</li> <li>AIができることをより具体的に想像するために、AIがどのように物事を処理しているのかわかる必要がある。</li> <li>世の中で話題となっているAIに関する情報を定期的に更新することが求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIの歴史 <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの定義</li> <li>AIブームの変遷</li> <li>過去のAIブームにおいて中心となった研究・技術（探索・推論等）</li> </ul> </li> <li>AIを作るために必要な手法・技術 <ul style="list-style-type: none"> <li>機械学習の具体的手法：教師あり学習、教師なし学習、強化学習等</li> <li>深層学習の概要：ニューラルネットワーク、事前学習、ファイナチューニング、大規模言語モデル、基盤モデル等</li> <li>AIプロジェクトの進め方等</li> </ul> </li> <li>人間中心のAI社会原則、ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) 等</li> <li>AIの得意分野・限界 <ul style="list-style-type: none"> <li>強いAIと弱いAI等</li> </ul> </li> <li>AIに関する最新の技術動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>生成AI等</li> </ul> </li> </ul>

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023

第I部 第3章 スキル学習項目 2.スキル学習項目詳細 (各項目の内容・行動例・学習項目例)

### How - データ・デジタル技術の活用事例

内容	説明	～学習項目例～
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおけるデータ・デジタル技術の活用事例を知っている</li> <li>データ・デジタル技術が様々な業務で利用できることを理解し、自身の業務への適用場面を想像できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の業務や担当しているサービスにおいて、どのようにデータ・デジタル技術を利用できるか想像できるようにするために、データ・デジタル技術が様々なビジネスシーンで活用されていることを知り、具体的な事例に接する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動におけるデータ・デジタル技術の活用事例 <ul style="list-style-type: none"> <li>サービス：配送ロボット導入、顧客情報を用いた購買傾向の分析</li> <li>販売：バーチャル試着サービス、無人コンビニエンスストア</li> <li>マーケティング：購買履歴に合わせたリコメンド機能、ビッグデータを用いたリスティング広告</li> <li>製造：製造データの蓄積・分析（スマートファクトリー）、部品の在庫の自動管理・調整</li> <li>研究開発：研究業務の自動化、研究データ基盤システムの構築</li> <li>調達：電子契約システムの導入、サプライチェーン情報の一元化</li> <li>物流：ブロックチェーンを用いた生産情報のトラッキング、顧客情報を用いた再配達予防</li> </ul> </li> <li>生成AIの活用事例 <ul style="list-style-type: none"> <li>業務全般における文章作成・要約、情報収集、課題抽出、アイデア出しへの大規模言語モデルの利用等</li> <li>顧客体験の改善、ビジネス変革等</li> </ul> </li> </ul>

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023



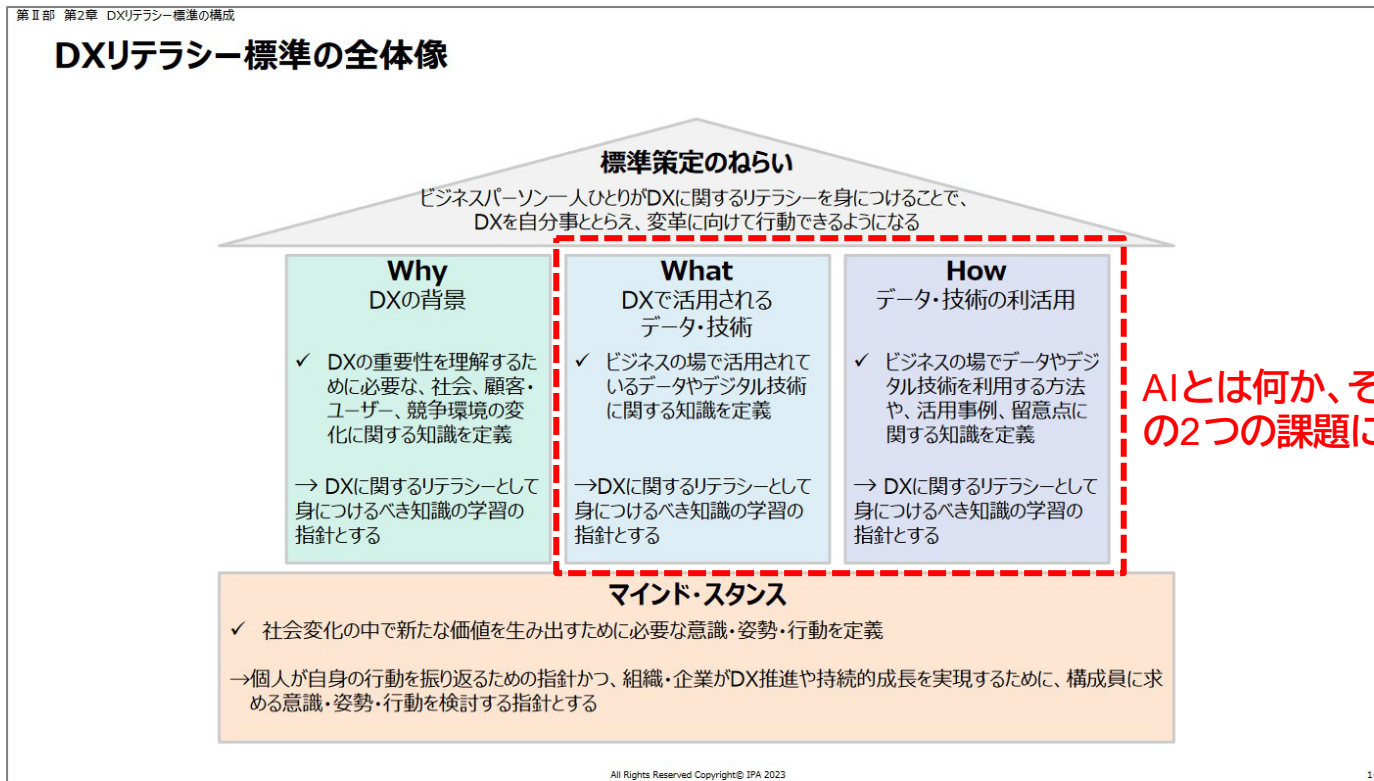
# 経済産業省主導「デジタルスキル標準」との準拠レベル



情報処理推進機構の策定した「デジタルスキル標準」ではDXに関する知識とスキルマインドをWhy/What/Howの3軸で学習しリテラシーとして身に付けることを提案されております。

プロンプトエンジニアリングマスターコースは、詳しい原理原則の説明と豊富なケーススタディによってデジタルスキル標準内で示されているAI学習項目例の内容に対応しています。

よって、能力の高いDX人材を育成するために効果的なブースタースキルとして活用できます。



AIとは何か、そしてAIをどのように活用するかの2つの課題に対応します

第Ⅲ部 第3章 スキル学習項目 1.スキル学習項目詳細 (各項目の内容・行動例・学習項目例)

### What - AI

内容	説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>AIが生まれた背景や、急速に広まった理由を知っている</li> <li>AIの仕組みを理解し、AIができること、できないことを知っている</li> <li>AI活用の可能性を理解し、精度を高めるためのポイントを知っている</li> <li>組織/社会でよく使われているAIの動向を知っている</li> </ul>	<p>～学習項目例～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの歴史                     <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの定義</li> <li>AIブームの変遷</li> <li>過去のAIブームにおいて中心となった研究・技術（探索・推論等）</li> </ul> </li> <li>AIを作るために必要な手法・技術                     <ul style="list-style-type: none"> <li>機械学習の具体的な手法：教師あり学習、教師なし学習、強化学習等</li> <li>深層学習の概要：ニューラルネットワーク、事前学習、ファイナチューニング、大規模言語モデル、基盤モデル等</li> <li>AIプロジェクトの進め方等</li> </ul> </li> <li>人間中心のAI社会原則、ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) 等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの得意分野・限界</li> <li>強いAIと弱いAI等</li> <li>AIに関する最新の技術動向</li> <li>生成AI等</li> </ul> </li> </ul>

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023

第Ⅲ部 第3章 スキル学習項目 1.スキル学習項目詳細 (各項目の内容・行動例・学習項目例)

### How - データ・デジタル技術の活用事例

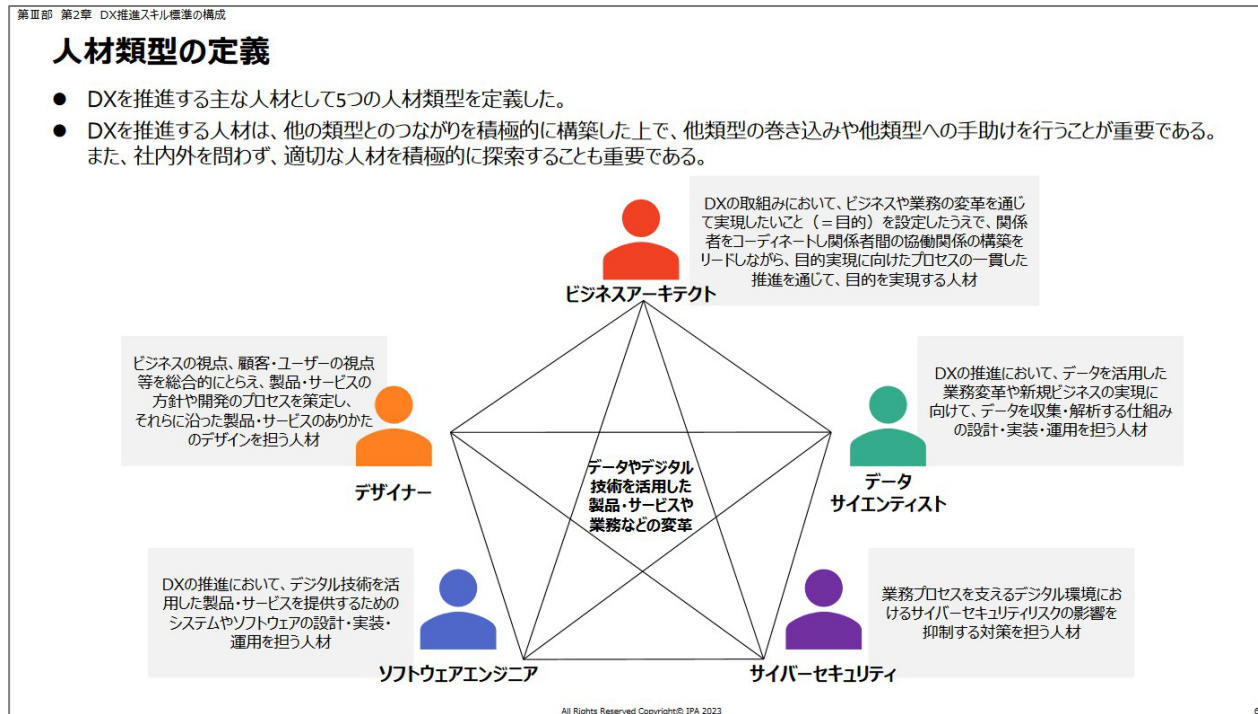
内容	説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおけるデータ・デジタル技術の活用事例を知っている</li> <li>データ・デジタル技術が様々な業務で利用できることを理解し、自身の業務への適用場面を想像できる</li> </ul>	<p>～学習項目例～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動におけるデータ・デジタル技術の活用事例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>サービス：配膳ロボット導入、顧客情報を用いた購買傾向の分析</li> <li>販売：バーチャル試着サービス、無人コンビニエンスストア</li> <li>マーケティング：購買履歴に合わせたリコメンド機能、ビッグデータを用いたリスティング広告</li> <li>製造：製造データの集積・分析（スマートファクトリー）、部品の在庫の自動管理・調整</li> <li>研究開発：研究業務の自動化、研究データ基盤システムの構築</li> <li>調達：電子契約システムの導入、サプライチェーン情報の一元化</li> <li>物流：ブロックチェーンを用いた生産情報のトラッキング、顧客情報を用いた再配達予防</li> </ul> </li> <li>生成AIの活用事例                     <ul style="list-style-type: none"> <li>業務全般における文章作成・要約、情報収集、課題抽出、アイデア出しへの大規模言語モデルの利用等</li> <li>顧客体験の改善、ビジネス変革等</li> </ul> </li> </ul>

All Rights Reserved Copyright© IPA 2023

# 経済産業省主導「デジタルスキル標準」内の重要スキル項目習得に対する当講座のカバー範囲について



デジタルスキル標準においては5つの主要人材類型が定義されており、各人材で必要なスキルが定義されております。各人材で身に付けるべき重要なスキルについては、当プロンプトエンジニアリングマスターコースを学ぶことで、飛躍的な効率化を実現します。



詳しくは別紙資料をご覧ください

# 厚生労働省人材開発支援助成金 (事業展開等リスクリング支援コース)について



新規事業の立ち上げなどの事業展開に伴い、事業主が雇用する労働者に対して新たな分野で必要となる知識及び技能を習得させるための訓練を計画に沿って実施した場合等に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を助成します。

支給対象事業主と対象となる労働者に対して、事業主以外の者が企画し主催する事業外訓練として最大で75%(支給上限額あり)までを経費助成として受給できます

詳しくは 厚生労働省 ホームページ内  
雇用・労働 > 雇用 > 事業主の方のための雇用関係助成金 >  
人材開発支援助成金  
事業展開等リスクリング支援コースをご覧ください

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html#1001](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html#1001)

企業内での人材育成に取り組む事業主の皆さまへ

## 新規事業展開やDX推進等の人材育成に「人材開発支援助成金」が活用できます ～「事業展開等リスクリング支援コース」のご案内～

人材開発支援助成金は、事業主が雇用する労働者に対して訓練を実施した場合に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を助成する制度です。「事業展開等リスクリング支援コース」では、新たな事業の立ち上げなど事業展開等に伴い必要となる知識および技術を習得させるための訓練を助成の対象にしています。

### 支給対象

**対象者** 事業主：雇用保険適用事業所の事業主  
労働者：雇用保険被保険者

**訓練**

- ① 訓練時間数が10時間以上であること
- ② OFF-JT（企業の事業活動と区別して行われる訓練）であること
- ③ 職務に関連した訓練で、以下のいずれかに該当する訓練であること

- i. 企業において事業展開を行うにあたり、新たな分野で必要となる専門的な知識および技能の習得をさせるための訓練
- ii. 事業展開は行わないが、事業主において企業内のデジタル・デジタルトランスフォーメーション（DX）化やグリーン・カーボンニュートラル化を進めるにあたり、これに関連する業務に従事させる上で必要となる専門的な知識及び技能の習得をさせるための訓練

注：本コースでは、事業展開などの内容を記載した「事業展開等実施計画」（様式第2号）を職業訓練実施計画と併せて提出する必要があります。取り組み内容を整理し、具体的な記載ができるよう、事前に準備をお願いします。

注：「事業展開」は、訓練開始日から起算して、3年以内に実施する予定のものまたは6か月以内に実施したものである必要があります。

【参考】事業展開の例：新商品や新サービスの開発、製造、提供または販売を開始する 等  
デジタル・DX化の例：ITツールの活用や電子契約システムを導入し、社内のペーパーレス化を進めた 等  
グリーン・カーボンニュートラル化の例：農業の散布にトラクターを使用していたが、ドローンを導入した 等

### 助成率・助成額

① 助成率・助成限度額

経費助成率		賃金助成額（1人1時間）		1事業所1年度あたりの助成限度額
中小企業	大企業	中小企業	大企業	
75%	60%	960円	480円	1億円

② 受講者1人あたりの経費助成限度額

10時間以上100時間未満		100時間以上200時間未満		200時間以上	
中小企業	大企業	中小企業	大企業	中小企業	大企業
30万円	20万円	40万円	25万円	50万円	30万円

注：e-ラーニング、通信制、定額制サービスによる訓練は経費助成のみです。

厚生労働省 都道府県労働局・ハローワーク LL050518開企01

お問い合わせ

お問い合わせ先はこちら

デジタルハリウッドアカデミー

メール [aca@dhw.co.jp](mailto:aca@dhw.co.jp)

電話 03-3525-4915